NEWS & TOPICS

教育的取り組み（アクティブラーニング）

学長付部長　**野坂　敬**

本学では、FD活動の重要な取り組みとして、「アクティブラーニング」による教育の質の向上を目指した取り組みを行い、全ての教員が具体的実施に向けての各種演習技法の習得等を熱心に研究してきました。このアクティブラーニングとは、これまでの講義が、知識の注入や伝達的な講義という一方的な教育手法で学生をお客様にしていたものを、学生自身が主体的に問題を発見し、解答を出していく「能動的学修」のことです。本学では、昨年から本格的に全ての授業科目に導入し、「お客様にしない」(脱受身化)を合言葉に取組みを本格始動し、2年が経過しました。この間、演習用の机の導入や視覚教材の充実等、演習環境の整備が行われ、授業では、教員と学生との相互刺激が活発に展開されるようになり、座学的であった従来の学習法は参加・獲得型へと転換され授業が活性化しています。

この「アクティブラーニング」は、学生が主体的に与えられた課題に対して個人で考え、グループで検討し、発表することで参加者の考えを知り、解決法の裾野の広さを知り、互いを認め合うことも一つの目的となっています。そのためには、私たち教員には個々の学生の意見を認め、自由に発想、発言できる見守り環境を作ることが求められます。本学では、このアクティブラーニングを更に深めていくことで人前では話すことが苦手な学生や、力を持ちながらも発揮できない学生等、個々の学生の特性に応じた効果的な学修(教育)環境を整備し、拡大していく社会環境の中でたくましく羽ばたける人材として育つことを大学の使命として支援していきます。

地域ボランティアの取り組み「体験してこそ」

地域交流研究センター委員長　**倉岡豊実**

毎年、県内各地の幼稚園・保育園、高齢者等施設や大会イベント事務局から多数のボランティアの依頼が本学にきます。できるだけ要望に応えようと、ポスター作成や声かけの努力を日々しているところです。本年度一般ボランティアに参加し、活動のよさを体験した二つの事例の学生の感想を報告します。

宮崎県の口蹄疫メモリアルイベント「水平線の花火と音楽ボランティア」に初めて参加しました。集合は朝の9時で終了は夜の9時でした。体力的にも大変疲れ途中で帰りたいと思いました。でも無償で出演されているアーティストの方々そして企画をされている裏方の方々の努力に感銘を受け、少しでも自分が力になれたことがとても嬉しく思いました。(保育科1年　Mくん)

「RYUSEIのランニングマン」みんなノリノリのダンスです。これは、冬休みに日南市の新築された保育園の柿落としに今年発足したダンスサークルとして参加した時の様子です。早朝、都農町から電車での初めての日南への旅、予定していた人数も減りとても不安でした。でもダンスをすると、子どもたちも先生方も楽しい笑顔で応えてくれたので満足感で一杯でした。(保育科1年　Iさん)

ボランティア活動で得るものは沢山あります。知らない地域、初対面での対応、普段見えない裏方等、体験してこそ努力や苦労が分かるものです。

後援会総会・保護者会のご案内

後援会総会は、4月7日（木）入学式終了後、11時より体育館で行われます。決算・予算の承認、役員の選出を予定しています。多数ご参加ください。

日時　4月7日（木）11時～　　場所　体育館

保護者会は、新2年生は5月28日（土）に行う予定です。改めてご案内を差し上げますが、全体会・学科会・学級主任との面談という流れで実施されます。どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申しあげます。

日時　2年生：5月28日（土）　1年生：10月29日（土）

宮崎学園短期大学市民講座 ニューライフ・アカデミー活動報告

地域に開かれた学園　生涯学習推進委員長　**花畑明美**

毎年ご好評いただいております「ニューライフ・アカデミー」が開催されました。今年のテーマは、本学教員の専門を生かした講座で、特に芸術をテーマとして県内で陶芸家としても活躍されている泰田久史先生の「楽しいスペシャル陶芸」と音楽療法士としてもご活躍の中武亮子先生の「音や音楽で楽しくコミュニケーション」の講座で多くの参加をいただきました。尚、本学が開催しております「ニューライフ・アカデミー」と9月に開催いたしました「シニアいきいきセミナー」の二つの市民講座は、来年度も開講いたします。

ご案内は本学のホームページに掲載いたします。

50周年記念行事実行委員会報告

50周年記念行事実行委員長　**宗和太郎**

昭和40年に清武町から誘致を受け、本学が誕生して50年の月日を迎えた。送り出した卒業生は1万9千になろうとする。

少子化と人口の大都会集中で地方の私大は苦戦するが、地方創生には地元の大学が不可欠だ。建学の精神「礼節・勤労」は地方創生をになう人材の基礎基本である。50年の歴史とその成果をアピールし、本学の存在感を高めようと記念行事を企画した。

50周年を記念するロゴを県内外から募集し、教職員の名刺や本学の発行物に入れ、1年を通してアピールすることにした。そして記念式典と祝賀会が創立記念日（10月12日）に催され、河野宮崎県知事に記念講演をお願いした。地方創生を担う本学学生への期待が語られ、本学からは建学の精神「礼節・勤労」を旨に社会貢献していく決意を語った。

ホームページでも公開している「50周年記念誌」を見ると、この50年の歴史が創立者、歴代教職員、歴代の学生たちの勉学とその後の社会での活躍、そして地元の皆さんの温かな協力支援のお陰であることを痛感する。

感謝し、更に次の50年へ前進していきたい。

平成26年度　宮崎学園の財務状況等を本学ホームページに掲載しております。
平成28年度前期学費等振込用紙を1月末に配布しました。

発行 ●宮崎学園短期大学後援会　　発行責任者 ●原田　祐三子

2016 Miyazaki Gakuen Junior College　宮崎学園短期大学後援会

3 後援会だより

March 2016　Vol. 29

イオンモール宮崎で開催した保育フェスティバル

時熟性（3週間のかべ）

宮崎学園短期大学
学長　**宗和　太郎**

人間の成長には時間の積み重ねに応じて伸びていく連続的なものと、ある時間変化を起こさず、突然階段を登るように変化が起きる非連続的なものがあることに注目したのは、ドイツの教育学者ボルノウであった。

毎日漢字や単語を覚えていくのは前者の連続的成長である。やればやっただけの成果が出る。しかしそうはいかないのが技能の習得や人格の成長である。水泳、自転車、人前でしゃべること等、あるいは不登校の子が学校へ行き出す、たばこを禁煙する等。これらはある日突然できるようになっていることに気づく。

突然ということに目を奪われると、「いつかできるようになる」と棚ぼたの幸運に期待するか、あるいは「自分には向いていない」と自分の素質のせいにして、努力に目を向けない。

「セレンディピティ」という面白い言葉がある。思いもかけず幸運をつかむ能力である。いわゆるノーベル賞級の発見というは、まさにそれに当たるが、その発見の過程を辿れば、何十年にも及ぶ実を結ばぬ不運の試みがあったことだろう。発明王エジソンは1つの成功の陰には999回の失敗があったと言う。一つ一つの失敗が、間違った選択肢を消して1000回目の成功を導いた。

何かができるようになるためには、成果が出ない日々に耐え、精進する根気が必要である。外国語の習得には1000時間の学習が必要と言われる。三日坊主では芽も出ない。私は経験則から「3週間のかべ」というのを唱えている。新たな習慣を自分に付けさせるには、3週間それを毎日続けることだ。1週目は苦しい、2週目はもっと苦しい、でも3週目はあと少しで終わるから頑張れる。そして4週目には苦もなくそれがやれるようになっている。私は片道10キロの自転車通勤をこれで始めた。禁煙にも成功した。他にもあるが、学生時代「3週間のかべ」を乗り越えることから、新しい自分に挑戦して欲しい。

学生の成長

保　育　科

学科長　野坂　　敬

つい先日入学してきたと思った2年生は、もう卒業に向けての最終コーナーに差し掛かりました。あと1ヶ月後には憧れであった保育士や幼稚園教諭、『先生』とよばれて子どもたちの前に立つことになるのです。きっと彼らは、夢がかなった喜びの中にいながらも、胸中いい知れない不安が大きく渦巻いていることでしょう。彼らが過ごしたこの2年間を、学生自身どう感じているのでしょうか。それは、忙しく授業に実習にと振り返る間もなく走りすぎた期間であったかもしれません。しかし、私たちからみると、緊張した表情で入学してきた彼らは、この2年間で、友人との交流や数回にわたる各種実習の中で大きく変化していることが分かります。それは、成長した思考や生活態度からだけでなく、子どもを前にしたときの自信に満ちた別人の姿として現れてきます。保育士は、人の成長に関わる対人関係の専門職です。学生時代の一人ひとりの成長の幅は違っていても、笑顔で子どもの前に立てる保育士として本当に成長するのは卒業してからです。保育科卒業生の誇りを持って明日に輝きます。

専攻科（福祉専攻）

専攻科（福祉専攻）主任　花畑　明美

人口の高齢化とともに福祉ニーズが多様化する中で、介護福祉士の専門性が問われています。本学専攻科（福祉専攻）は、保育士資格取得後さらに視野を広げ多くのことを学び成長したいという志の高い学生たちが進学してきます。入学して間もない時期での実習では緊張が強い中、どの学生も相手と目線を合わせて話をしようとする姿に対人援助職として大切なものを身につけていることを確信します。

さらに、学内での講義・演習をはじめ、年4回、高齢者施設等での介護実習など専攻科で1年間学び、子どもから障がい者・高齢者へと支援の対象を広げ、将来、あらゆる人たちを対象とした対人援助職の専門家を目指し、医学的知識をはじめとする専門的知識・技術を修得するために日々勉学に励んでいます。そして専攻科（福祉専攻）で学んだ学生たちは、1年間の間により大きな成長を遂げ、後輩たちから憧れの存在となっています。また、このことは県内外の職場でも非常に高い評価を頂き「宮崎学園短期大学生が欲しい」とありがたい声を頂いております。求められる介護福祉士養成教育の継承を・・・私たちの願いです。

現代ビジネス科

学科長　久保　良一

現代ビジネス科は、2年前に「人間文化学科」から激動する社会に対応する人材の育成を目指し、学科名称を「現代ビジネス科」に改編いたしました。つまり、今年の卒業生からこの学科名で卒業することになります。ビジネス教育は、「ヒト」に起因します。社会は組織で成り立ち、そこに「ヒト」が存在します。「ヒトを理解する」ことがビジネスを学ぶということになります。学科の教育課程もそれぞれの科目を配置して総合的にヒト教育を行い、当然それが人材育成に繋がってまいります。地元で生まれた者(地産)は、地元で育て(地育)、社会活性化のために地元に還す(地消)ことを合い言葉に「付加価値」を身につけた人材を、今後とも地域のために輩出していく使命を持った学科といえます。

そこで、2年間それぞれ教育活動を行ってまいりました柳田健太ビジネスコース主任と武村順子医療事務・医療秘書コース主任にそれぞれの思いと成長を記述していただきました。

ビジネスコースは、昨年以上に実践力を養う教育への転換を図るべく、新たなフィールド開拓を行ってきました。インターンシップや企業見学はもちろんのこと、企業との連携や統計グラフコンクールへの出展、研究発表大会への参加など学びの場を広げ、対話力や場に応じた対応力などリテラシー向上に努めてきました。現1年生は3月から就職活動という競争の場に身を移します。実践の場を通して培った「新たな経験」を強みに変え自らの夢を実現してほしいと思います。

医療事務・医療秘書コースでは、日々の専門教科の学修に加え2回の医療機関実習を行います。また、卒業までには医療保険請求事務、日医IT日レセ(認定オペレータ)、日本医師会認定医療秘書の資格を獲得します。学生達は、本学でのカリキュラム履修と資格という強みを活かし、身につけた知識を基にこれからも日々変化する医療関連の情報を学び続けていきます。社会において学生達は、たくましく成長し医療事務職の専門家になってくれると思います。

以上のように、現代ビジネス科は学科生のために努力してまいりますので、今後とも後援会の皆様のご支援・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

専攻科（音楽療法専攻）

学級主任　後藤　祐子

2002年に専攻科（音楽療法専攻）が本学に設置されてから、今年度で14年の月日が過ぎました。数多くの音楽療法士を送り出してきた専攻科（音楽療法専攻）の幕がもうすぐ下りようとしています。今年度本専攻科に入学した学生たち7名は、この1年間でそれぞれ自分が目指す道を懸命に突き進んできました。社会人で入学し、音楽療法士を目指す学生や保育、音楽療法の道を目指し音や音楽で人の発達を支援したいと志している学生。また高齢者や障がい者の施設で働き、誰もが自分らしく裕に生きていくために音や音楽で利用者に寄り添いたいと思う学生。それぞれに歩む道のりは様々でしたが、人の役に立ちたいと思う気持ちは皆一緒で、お互いに切磋琢磨しながら成長してきたと思います。2月に行われた修了研究発表会では、各自で定めた音楽療法に関するテーマについて1年間研究し仕上げた論文の発表を行いました。一人ひとりが、自分の言葉で「音楽する意味、音楽を使う意味」を語る姿は、とても凛々しく力強いものでした。これからも、本学で一緒に学んでくださったたくさんの修了生が繋いできた音楽が、地域の方々の中に根付き花開くことを願っています。